

平成 29 年 12 月議会定例会 市長諸報告

(平成 29 年 12 月 1 日)

皆様、おはようございます。

本日、ここに平成 29 年 12 月議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれては、ご多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

まずは、9 月の台風 18 号、10 月の台風 21 号により被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

先般の台風 21 号では、市北部では降り始めてからの雨量が 250 ミリに達し、護岸崩壊など多くの被害が発生しましたが、幸いにも人的被害はありませんでした。8 月の大雨と 2 つの台風による真庭市内の被害状況は、公共土木施設 76 件、農地・農林業施設関係 64 件、その他の公共施設など 16 件で、被害総額は約 3 億 1 千万円に達しています。発生後、速やかに災害復旧に対処し、今議会に補正予算を計上しておりますが、昨今、線状降水帯などによる異常な豪雨に見舞われ、甚大な災害を被る地域が多く、真庭市として引き続き警戒を怠ることのないよう対応してまいります。

それでは、この間の真庭市政の主な動きを中心に報告します。

11 月 13 日から林野庁「森林技術総合研修所」主催の「木材産業・木材利用研修」が昨年度に引き続き開催され、真庭市の林業、バイオマスなどにおける取組の先進性を参加者に伝えることができました。このことを更に広範に周知し、研修所の真庭市への移転が実現できるよう、岡山県とともに国や関係者に粘り強く働きかけてまいります。また、11 月 21 日には、私が座長を務める全国市長会の「林政問題に関する研究会」が開催されました。全国から集まった 19 自治体の市長などが、バイオマスツアーに参加するとともに、森林の公的管理に係る体制整備に関する財源措置や林業を成長産業にするための政策提言を取りまとめ、国などに要望していくことを決定しました。

大変喜ばしい話題として、「改組新第 4 回日展」書道部門で、一昨年に続き寺坂昌三(てらさか まさみ)さんが特選に、沼本游香(ぬまもと ゆうか)さんが入選になりました。既に日本伝統工芸展の木竹部門のトップ NHK 会長賞に輝いた高月国光さんに続く快挙であります。加えて、10 月に岡山県内で開催された「日本学校農業クラブ全国大会」で意見発表をした真庭高校久世校地 3 年の松尾麻奈佳(まつお まなか)さんが最優秀賞に当たる文部科学大臣賞を受賞されました。市民の方が全国的に活躍されることは真庭市の誇りであり、顕彰するとともに、様々な分野でこのような方々が多数誕生するように、真庭市の未来を担う「ひと」を積極的に応援してまいります。

また、地方自治法施行 70 周年記念式典が 11 月 20 日に天皇皇后両陛下ご臨席の下に挙行され、真庭市は、地域資源に着目した地域振興の取組により、総務大臣表彰を受けることができました。これを契機として、未来志向で持続可能な地域づくりを一層強力に市民の皆様とともに進めていく決意であります。

この間、地域の様々な喫緊の課題に対処しながら、真庭の将来を展望し、若者の結婚・出産・子育てと切れ目のない支援を充実してきました。また、企業誘致や地元企業の支

援などの産業振興に加え、地域内で付加価値を高める「回る経済」を進化させること、さらに、安心して暮らせる社会基盤づくりはもとより、誰もが健やかに地域で暮らせる「健康長寿」のまちづくりを進めております。このような行政を推進するため、組織として力が十分発揮できるよう職員力の向上に努めるとともに、安定した財政基盤が必要なことから、事務事業や内部管理の「カイカク」「カイゼン」に努めてまいりました。

その成果の一端として、旺盛に事業執行をしてきたにも拘わらず、平成28年度決算状況を申し上げますと、起債残高は、最も多かった平成19年度の718億円が、608億円に減少し、一方、基金総額は、約269億円と過去最高に達するとともに、一般会計の実質収支は12億7,000万円の黒字という、現時点では健全な財政状況になっております。

しかし、将来を見通すならば、緊張感をもった財政運営が必要です。9月議会でも申し上げますが、普通交付税がこの3年で14億7,000万円も減少しております。現在のままの財政運営を続けるならば、平成33年度に一般会計が赤字に転落することが予想されます。

このようなことを踏まえ、平成30年度予算は、安全・安心で魅力的な地域づくり、力強い循環型の地域経済づくり、夢ある子育てと豊かな文化づくり、次世代を担う「ひと」づくりの4つを重点項目として、人口減少対策にすべての施策を繋げる「攻めの行政」をする一方、国・県補助制度はもとより、民間資金の活用により財源確保に努めるとともに、効率的な行財政運営のためCAPDサイクルによる行政評価を予算要求と連動させることや、部局間連携により事務事業の重複を避けることも念頭に置き、編成を進めるよう指示したところであります。

なお、戦後70年余り、先人たちの絶え間ない努力のおかげで今日の繁栄がある一方、成熟化、情報化、人口の都市集中と少子高齢化が進展する社会に「影」の部分もあります。今後、どのような社会が到来するのか？どのような日本、地域を目指すのか？次代を担う人材とは？それをどのように育成していくのか？その中で真庭市のあるべき行政は？と時折考えあぐねることがありますが、先般、林文部科学大臣からIoT(Internet of Things)やAI(Artificial Intelligence)などが駆使される社会「Society5.0」、つまり、情報社会の次に展開される新たな社会に対応できる人材育成に向けた「文部科学大臣懇談会(大臣、大臣補佐官を含め11人)」の委員になることをご指名いただきました。分不相応と悩みながら、お断りしにくい状況になり、懇談会に参画する決意をしたことを報告します。

それでは、市政の現状と成果、今後の取組について、その主なものを報告申し上げます。

はじめに、総合政策部関係であります。重要かつ困難な課題である人口減少対策については、①人口の社会減をどのように抑制していくのか、②実際に人口減と少子高齢化が進む中、行政や地域がどのように対応していくのかという2つの視点で捉えるとともに、産業、福祉、教育、生活環境など複数の分野で様々な施策を連携して実施することが必要であります。多くの市民の方にも関わっていただきながら、市政全体の課題として総力を結集して取り組んでまいります。

総合教育大綱の実現を目指す取組についてですが、先般、総合教育会議を開催し、『こどものやる気を引き出す学校・家庭・地域のあり方』について活発な議論をしました。今後、ワークショップなど市民の皆さんに参画していただく機会を増やし、共に育つ「共育」を進めてまいります。

真庭市の将来を担う人を応援する基金事業についてですが、本年度提案を頂いた約70件について、事業化できるものの検討を進めております。

交流定住関係では、9月30日に東京有楽町において、真庭発信プロジェクト「真庭ライフスタイルのススメ」を開催し、地域を持続可能にする里山真庭の暮らしを移住した方の経験を含めて発信しました。また、岡山連携中枢都市圏事業として、新たな移住相談窓口を10月より東京駅近辺に開所し、移住希望者への相談体制を強化しております。

真庭なりわい塾は、11月3日に開催した中和紅葉祭において、1期生によるプロジェクト活動の展示と成果発表をしました。塾生たちは、今後も真庭市との関係を繋いでいきたいという希望を持っており、また、数名は移住の意向を持つまでに至っております。今後とも、なりわい塾を積極的に展開してまいります。

地域間連携を進めている「第3回やまびこマーケット」を11月12日に旧上田小学校で開催したところ、市内外より多くの出展があり、各地域の特産品の販売やワークショップに多数が来場しました。今後、市内各地域の特産品開発や空き家活用、地域の支えあいなど地域づくりの情報交換を行う「やまびこ交流会」も計画しており、引き続き「ひと」と「ひと」そして、地域の繋がりを広げる取組を進めてまいります。

シティプロモーション関係では、真庭の食をテーマにテレビ放映が2つあり、大きな手ごたえ、反響がありました。今後とも、様々な手法でシティプロモーションに力を入れてまいります。

行政告知放送整備事業については、蒜山地域から宅内工事の説明会を順次実施し、平成31年1月末の完成を目指して工事を進めております。

次に、各振興局の取組について報告します。

蒜山地域では、来春の山焼きに向けて、「山焼き復活プロジェクト」により上徳山地内の鳩ヶ原で防火帯となる火道を敷設しました。これにより山焼きの継続と復活が広がっていくことを期待しています。また、郷原漆器の魅力を発信し後世に継続させるため、プロモーション映像を作製し、YouTubeで公開しました。今後、国内外でプロモーションを行い、郷原漆器の販売促進や蒜山観光客の誘致に繋げてまいります。

北房振興局では、「荒木山の古墳を顕彰する会」が、市指定文化財である荒木山東塚・西塚古墳を後世に伝えようと清掃や見学道の整備をしたほか、講師を招いて勉強会などを実施しています。これらの活動が、地域に残る多くの文化遺産を守るとともに、ふるさとへの思いを育む「郷育」に繋がることを期待しております。また、古民家やお寺などでの田舎の素朴な魅力に触れるモニターツアーが外国人に大変好評であることから、農泊事業を推進することとし、来年度後半からの本格的な運営を目指してまいります。

落合振興局では、田原山上地区において、岡山一宮高等学校の生徒が「社会貢献活動」

の一環として、旧上田小学校周辺のアジサイの剪定や旧校舎の清掃などをしたほか、岡山大学の外国人留学生が「校外学習授業」としてお寺での修行体験や竹細工体験をしました。今後、市外から高校生・大学生の受け入れを活性化することで、地域と学校との繋がりが強まり、地域が活性化していくことを期待しています。

久世地域では、檜邑地区の菜の花プロジェクトの取組みとして、檜邑小学校の児童が、自ら梳いた檜西和紙で使ったあんどんに地元で製造した菜種油で火を灯したり、地域特産品の生産から販売までを経験し、地域学習をしました。また、市街地部では、風曜日主に一人暮らしの方がおしゃべりしながら夕食を楽しむ「大人食堂」が運営され、まにワッショイ古民館では本屋を開館するなど、まちづくりの新たな取組が加わっています。

勝山振興局では、10月7日に全国から想像を上回る約500名を迎えて「第6回全国薬草シンポジウム」が開催され、薬草の取組をどう将来に繋ぎ、産業として継続していくかなどが議論されました。市としても薬草の事業が継続されるよう支援してまいります。また、勝山町並み体験クラフト市は、今年で5年目を迎え、今後はイベントから日常へ繋げ、常に様々な体験が可能な「体験の町勝山」を目指してまいります。

美甘振興局では、美甘のヒメノモチとアマゴを使用したレトルト商品の開発が進められる中、「美甘文化祭」で試食会や販売が行われました。また、ふるさと納税に取り組んでいる地域づくり委員会で、これらの特産品を「美甘ふるさと便」とすることを検討しており、旧美甘中学校に明かりを灯す地域主体の事業が確実に前進しつつあります。

湯原振興局では、湯原振興局庁舎及び消防署湯原分署の移転・整備に関する方針の地元説明会を9月に3回開催しました。そこで出された意見などを湯原地域づくり委員会とも協議した結果、市として方針どおり移転を進める考えであります。今後は、整備計画（案）の基本的な考え方について関係者等と協議を進めてまいります。また、地域づくり関係ですが、社地区で神輿担ぎに続き、第2回竹あかりイベント開催に向け、大学生も交えた準備が進められており、地域が元気になりつつあります。さらに、二川地区では移住者の受け入れに向けた勉強会を開催するなど、その体制づくりが進められています。

このほか、地域連携による取組として、富原地域振興協議会と美甘地域活性化協議会が、東京にある全国うまいもの交流サロンにおいて、両地域の食材を活用した料理を10月に1か月間提供し、また、11月27日には「とっとりおかやま新橋館」でPRイベントを実施しました。さらに、美甘地域では、山菜流通の仕組みづくりがきっかけとなり、富原婦人林業研究クラブと連携して薬草カレーの材料となる薬草を収集する体制づくりができました。今後開催する「やまびこ交流会」などを通じて、各地域間の連携が強まることによって地域づくりの進展に弾みがつくことが期待されます。市としても、各地域づくりの連携を支援してまいります。

次に、危機管理関係についてであります。11月9日に災害時の体制の確認と職員の防災意識の醸成を図る、県内自治体としては初めての「災害対応高度化研修」を消防防災科学センターの専門員を招いて実施しました。今後、集中豪雨被害を想定した実践

的な訓練などを実施するとともに、自主防災組織の設立と機能強化により地域の防災力を高め、市民の安全・安心の確保に取り組んでまいります。

次に、生活環境部関係についてであります。国民健康保険事業の広域化については、真庭市からも医療費適正化に関する意見を提出しておりますが、各市町村の意見を踏まえて、岡山県国民健康保険運営方針が11月に決定されており、平成30年1月末までに各市町村の国保納付金の本算定額及び標準税率等が通知される予定であります。

地域文化の発信と交流については、10月15日に東京文化会館で夏目漱石生誕150年記念「漱石が上野で聴いたハイカラの音楽会」が開催され、エスパス混声合唱団が日本を代表する東京混声合唱団とともに2,300人の満席の舞台に立ち、堂々と歌声を披露しました。このことが今後の活動の励みとなり、市民による芸術文化の更なる進展に貢献していただけるものと期待しています。また、新進気鋭のピアニストやチェリストがエスパスホールで演奏したCDが権威ある音楽雑誌の特選や準特選になりました。CDには真庭市の風景が掲載され、エスパスホールが明記されており、それが国内外で発売されることにより、エスパス、延いては真庭市の存在感が高められています。このように、様々な文化芸術活動は生活に潤いをもたらすだけでなく、地域の活性化にも大いに貢献するものであります。今後も市民主体の活動を積極的に支援してまいります。

「東京オリンピック・ホストタウン」については、10月30日にホストタウンミーティングがドイツ大使館で開催され、ドイツ大使、鈴木オリパラ担当大臣をはじめ多くの関係者と意見交換を行ってまいりました。2020年の大会終了後も観光、文化、産業面も含めた交流が更に活発になるように、このホスト事業に取り組んでまいります。

資源循環型社会の実現に向けた取組ですが、生ごみ等資源化施設の建設候補地の公募をするとともに、市内7か所で説明会を実施しました。引き続き、資源循環の必要性、有効性の啓発を行い、建設用地の確保に努めてまいります。また、バイオ液肥を活用した農業振興については、現在、液肥活用が有効な圃場条件の明確化などの調査を実施しており、低コスト農業の確立に活かしてまいります。

コミュニティバス「まにわくん」については、自家用有償旅客運送関係通達が改正されたことを受け、「富原・月田ルート」の統合・新設と一部デマンド化について、富原地区で開催したワークショップで意見集約するとともに、「真庭市地域公共交通会議」においても承認されましたので、翌年度から見直し計画に基づき運行できるよう進めてまいります。

次に、健康福祉部関係についてであります。健康づくりについては、10月の「乳がん月間」に合わせた「日曜日検診」の実施や、皆さんの意見を反映させた受診しやすい環境を整え、受診率の向上に努めてまいります。また、真庭版ラジオ体操を普及させるため市民参加型で作成したプロモーションビデオを使って、運動の大切さ・楽しさを伝え、健康に対する意識醸成を図り「健康長寿 真庭」を目指してまいります。

歯科保健については、体制を強化した「真庭市歯科保健関係者会議」で取組を協議し実践していくことで、3歳児検診時にむし歯がある児の率を昨年度の約30%から3年後

には岡山県平均の20%未満にすることを目指してまいります。

次に、産業観光部関係についてであります。商工業振興については、人材不足感が更に強まっている状況で、市内事業者も人材確保の問題を抱えており、危機感を持って、インターンシップ奨励事業や企業説明会出展支援事業などにより人材確保の積極的な取組を支援してまいります。また、卒業して市外に出る高校生を対象にネットによりふるさと真庭と継続して繋がる取組みを強力に進めてまいります。

企業誘致の関係では、真庭産業団地の立地が進んでおり、既に内定中の区画を除く残り3区画についても、早期分譲が進むよう、県の立地補助制度の要件緩和を強く働きかけているところであります。また、この団地の立地企業の連携や維持管理体制等の在り方について、先般、立地企業との意見交換を行い、検討を進めております。

観光振興については、9月24日開催の「海の市・山の市2017真庭」の来場者は、過去5年間で最高の43,000人を記録し、大いに真庭の多彩な魅力を発信することができました。また、インバウンドの取組については、訪日観光客が年々増加しているマレーシアにおいて、9月に岡山市と共同で観光PRと現地旅行会社との商談を実施し、真庭への誘客の手応えを感じたところであります。今後も広域的な連携を強化し、インバウンドを含めた観光誘客を推進してまいります。

持続可能な森林経営を目指す美甘地区での取組については、協議会を11月15日に設立しました。アドバイザーとして京都大学や林野庁近畿・中国森林管理局の方々に参画いただいております。今後、課題解決の具体的な手法の実証を通じて、効果を検証しながら、山元を含めた関係者全員が安定した収益を確保できる森林経営と資源循環の先進モデルの確立に取り組んでまいります。

木材の需要拡大については、新聞報道があったように台湾へのCLT輸出が決まり、また、昨日は、CLT建築の見地を広めるセミナーと北房こども園などの見学会を開催したところ、全国各地から建築関係者を中心に参加が200名余りに達するなど、普及を実感したところであります。今後、都市部でも利用が進むよう関係者と連携して取り組んでまいります。

次に、建設部関係についてであります。岡山自動車道の4車線化については、真庭市側有漢トンネルから宮地川橋までの土工事の請負業者が、12月中には決定される予定であり、いよいよ目に見える工事が始まろうとしています。また、「海の市・山の市」に併せて全線4車線化による効果をPRするなど、岡山米子線全線4車線化に向け、気運醸成と利用促進に力を入れてまいります。鍵は岡山県を含む関係県が強力な推進体制を組むことです。市として、働きかけを強めます。

旭川サイクリングロード(仮称)については、平成29年度末までに舗装工事は全体の60%が完了予定であります。路面標示、看板、休憩所は、『「まにわらしさ」のある景観整備に関する基本方針』にもとづき、旭川を軸としたまちづくりの一環として、市民をはじめ自転車愛好者とともに検討し、全体の整備を促進してまいります。

下水道事業については、効率的な下水道経営に取り組むため、岡山県の協力を得て、西日本の自治体では初めて、10月に勉強会を日本下水道事業団とともに立ち上げ、中

長期的な投資・財政計画の策定を進めております。

次に、教育委員会関係についてであります。学力向上、学習効果を上げる授業については、学力調査で明らかになった中学生の学習習慣の弱さを克服するため、市の広報紙、ホームページ、MITを通じて実態とその改善策を示したところであります。真庭市の将来を担う子どものために、家庭と学校、そして地域を挙げた取組となるよう進めて行かなければなりません。このため、家庭での学習時間の確保は当然ながら、地域での体験学習を重視し、地域への誇りや愛情を育むとともに、課題を発見することや考える力の育成に取り組んでまいります。真庭市の教育の現状を地域課題として捉え、市民運動として取り組んでまいりますので、熱意ある市民の皆様の協力をお願いします。

「100年後も輝く学び舎と地域づくり」を進めている北房地域新教育環境整備については、新しい学校で児童が安心して過ごせるよう小学校間の交流を実施するとともに、新しい教育課程づくりを進めております。来年4月真庭の木をふんだんに使った校舎に元気な子供たちの声が響くことを楽しみにしています。

「本の香りがするまちづくり」については、中央図書館になる旧勝山振興局の内部の解体が終了し、現地見学会を10月に開催したところ、開館を心待ちにしている多数の方々に参加いただきました。また、蒜山図書館については、蒜山振興局を改築し、移転することについての説明会を11月16日に開催し、いただいた意見を設計や運営に反映するなど、市民や観光客に魅力のある図書館づくりを進めてまいります。

豊かな文化づくりについては、10月から落合総合センターで県指定重要文化財「中山遺跡出土特殊壺・特殊器台」の常設展示を開始し、また、蒜山郷土博物館では、蒜山へスキーが導入された歴史や冬の生活を紹介する企画展を開催しており、様々な催しなどにより文化資源を紹介しております。さらに、11月19日開催の「文化遺産を活用した人づくり・地域づくり」と題した歴史郷育講座は、地域の文化遺産を次世代へ伝えていく重要性を考える機会となりました。引き続き、ふるさとを知り、ふるさとへの思いを育む「郷育」を推進してまいります。

なお、国指定重要文化財であり、西日本有数の近代教育建築である「旧遷喬尋常小学校校舎」については、建築後110年という節目を迎える本年度、これまで実施してきた構造調査結果をもとに、それにふさわしい整備と利活用方策を検討する有識者委員会を立ち上げるよう準備を進めているところであります。

最後に、総務部関係についてであります。市役所を担う人材については、市役所でのインターンシップに県内外から12名が参加し、今年度から始めた真庭市未来を担う人応援基金事業の活用もありました。また、総社市との職員交流に係る協定を締結し、平成30年4月から人事交流を行うこととしており、真庭市の将来を担う「ひと」の確保と育成に努めてまいります。なお、職員採用試験に市内外から多数の応募者があることも真庭市の存在感が高まっている証拠であり、喜ばしいことです。

協定の締結についてですが、11月14日に真庭市内の郵便局及び新見郵便局と業務中に地域住民の異変に気付いた場合や道路の異常を見つけた場合などの情報をいただく協定を、また、11月25日に人材育成、地域福祉、産業など振興に寄与していくことを

目的に美作大学、津山工業高等専門学校、岡山県美作県民局と美作地域の 10 市町村で包括連携協定を締結しました。締結した協定を活かして効果を上げる工夫、努力してまいります。

高校生議会については、主催の青年会議所と全面的に支援した市議会、そして市役所との連携により開催し、高校生議員 12 名から真庭市の重要課題についての質問があり、18 歳を前に有権者となる意識付けと、日本、そして真庭市の次世代を担う「ひと」づくりに有意義な行事となりました。

以上、市政運営の状況について、主なものをご報告しました。なお、今定例会では、報告 1 件、条例や補正予算議案など 15 件、総数 16 件のご審議をお願い申し上げます。また、諸議案等の内容につきましては、日程に沿い順次説明しますが、ご審議のうえ、適切にご議決を賜りますようお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶と業務の報告とさせていただきます。